

Multiscale Phenomena in Condensed Matter (Multis2022)

会議報告

ポーランド科学アカデミーの Henryk Niewodniczanski 核物理研究所で開催される分子性化合物の凝縮系物性に関する国際会議, Multiscale Phenomena in Condensed Matter (Multis) 2022 がオンライン会議として開催されました. この会議は2年に1度, クラクフになる同研究所の凝縮系物性のグループが中心になって6月末から7月上旬に開催される国際会議です. 本年の会議の主催は, 同研究所でソフトマターグループを率いておられる Mirosław Gałązka 先生と金属錯体化合物の磁性研究グループの Robert Pełka 先生です. Monika Synowska-Kałuża さんに secretary として様々な事務をご担当頂き, 会議の様々なご連絡を頂きました. Multis 会議は 2015 年に最初に開催され, 以降, 奇数年ごとに Henryk Niewodniczanski 核物理研究所の本部講堂で開催されてきました. もともと核物理研究所の故 Jerzy Janik 先生のフレンドシップミーティングとして開催された会議であり, 長い伝統があります. その後, Multis として国際会議のかたちには拡張して開催されてから4回目(昨年度の Young Multis を含めると5回目)となり, 物性研究を対象とした物理, 化学, 数理科学の横断型の会議として定着してきました. 中澤も毎回参加させて頂いておりましたが, 新型コロナのパンデミックの影響を受け, 2021 年は通常の会議としては延期ということになり, オンラインで Young Multis として発表や国際会議での議論の機会が減少してしまった若手研究者や大学院生のイベントとして開催されました. 本センターの卒業生の野本さんが, 昨年の化学熱学レポートに会議報告を執筆されています. 2022 年にはコロナも落ち着き, 各国間の入国制限など緩和され, 現地開催ができることを主催者側はもちろん参加者サイドでも期待しておりましたが, なかなかコロナの終息が見えず, 今年の会議もオンラインで開催ということになりました.

2022 年 6 月 27 日(月)から 6 月 30 日(木)まで計 47 件の口頭発表の講演(30 分の Opening 講演, Key-note 講演, 招待講演, 20 分の一般講演), 7 件の Flash talk session(5 分間の質疑応答なしの口頭レポート)があり, 28 日(火)の午後には zoom のブレイクアウト room を使って 48 件のポスター発表がありました. ヨーロッパを中心に各国から招待講演者, 一般講演の方が参加され, 延べ 150 名以上にもなる大きな会議になりました. 時差のあるアジア地域からの参加者はあまり多くなく, 日本からの参加者は, 筑波大学の齋藤一弥先生, さらに筑波大学から2名, 近畿大学から1名の方と, 阪大からはセンター長の中澤が出席し, 合計 5 名となりました. 齋藤先生は初日のオープニングセッションで招待講演され, スピン系を用いてクラスター内での構造構築に関する統計熱力学的なシミュレーション結果を発表されました. 中澤は, 2 日目火曜日のセッションで, “Thermodynamic properties around the metal-insulator phase boundary in the dimer-Mott organic compounds”というタイトルで 20 分の講演をしました. ドイツのゲーテ大学の J. Muller 先生や, イギリスのケンブリッジ大学の Cavendish Laboratory の P. Goddard 先生など電荷移動塩の伝導物性の研究をされている先生方も参加されており, ご議論頂きました. ポスターセッションでは, ウクライナから M. Barabashko 博士, Y. Horbatenko 博士が参加されており, ロシアの進攻後, メールのやり取りはありましたが, 初めてオンラインでお会いすることができました. 中止になってしまったウクライナでの国際会議を是非, 秋には開催したいと非常に前向きなお話をされていました.

会議期間は, 春夏学期のセメスターの真ただ中でもあり, 大学では今年度からは授業は原則対面に戻ったこともあり, なかなかフルタイムの参加はできませんでしたが, 様々な分野のお話を

久しぶりに聞くことができ、非常に有意義な会議でした。コロナになって3年目の夏ということもあり、世界の皆さんがOn-line形式の会議にも慣れてきたのか、大きなトラブルもなく運営されていました。Mirośław Gałązka先生の段取りの正確さと、運営能力には驚くばかりです。大学の講義や会議がひと段落した後で、夕方から参加できる点は非常に有難いですが、疲労は倍増になりました。しかしながら、クラクフの街の中心にある中央広場や、その近くのヴァヴェル城、ヤゲロニアン大学の博物館などクラクフの風景が懐かしく思いだされると、自然とやる気が出てくる会議でした。ポーランドのHenryk Niewodniczanski核物理研究所と大阪大学の熱・エントロピー科学研究センターの交流と共同研究をより大きく発展させながら、次回は以前のように、大学院生の人も出席して現地での開催になればと期待しています。

(中澤康浩)

Multis 2022



Multiscale Phenomena in Condensed Matter

Kraków, 27 – 30 June 2022

The Henryk Niewodniczański Institute of Nuclear Physics
Polish Academy of Sciences

